

おうとう

第7号
文責日高洋子



2学期スタート 難しいことに挑戦する2学期に

長い夏休みを終え、子ども達が学校に帰ってきました。運動に学習にと充実した休みを過ごしたことでしよう。柔道部は佐賀での九州大会に参加しましたが、大きな経験になりました。参加した3年生の荒木我空さんは「九州大会はみんな強かったです。自分は一回戦で敗退でした。でも

すぐく良い経験になったと思います。応援ありがとうございました。」と爽やかに話をしてくれました。大変素晴らしい経験をしたのだと、嬉しい気持ちで一杯になりました。2学期は多くの学校行事が予定されています。子ども達には始業式で『つらいこと、面倒なこと、きついこと、難しい



1・2年生ソフトテニス部は夏季大会で大健闘。暑い中よく頑張りました！！

ことから逃げずにぜひ、自分から難しそうなことにも挑戦してみよう。難しいことややり通した経験は、きつと「自信」につながる。そして、その過程はきつと「誠の人」への道につながっていく。』と話をしています。2学期は自分を磨く大事な時期でもあり、職員一同その支援・指導には全力で取り組みます。

学校生活を確認します 1学期からの確認事項について

子ども達の学校生活は「至徳心得」にそのルールを示していますが、環境の変化などから、変更している部分があります。本校では本年度から制服が新しくなり、夏の制服はポロシャツ(紺)となりました。新しい制服のスカートやスラックスだけでなく、現2、3年生の制服にもポロシャツは着用可能です。しかし、自転車通学や徒歩での登校の際にどうしても汗をかいてしまうため、自転車通学には体操服を着用可にしていきます。また、登校後は着替えのためのTシャツの着用も認めています。しかし、何でも良いという訳にはい

きません。まずは学校が推奨している「魄Tシャツ」を優先としています。それでも洗い替えが間に合っていない、やむを得ない場合に限り、部活動などで練習着として認めている「チームTシャツ」を可としています。スポーツメーカーのロゴ入りなど市販のTシャツを始めから着用し、家用車での登校は認めていません。また、職員と保護者との携帯電話・SNS等も含む)等での個別での連絡は様々なトラブルに発展しかねない、とのことで控えていただいています。
※学校へのご質問や御相談などは職室の電話へお願いします。

2学期の主な行事予定

- 9月 2日(火) SYD 出前講座
- 9月 5日(金) 久賀中学校交流体験
・久賀中の生徒が翁頭中で交流
- 10月 1日(水) 駅伝大会
- 10月 5日(日) 公民館運動会
・大浜公民館、本山公民館とも同日開催
- 10月10日(金) 高校説明会(2,3校時)
進路説明会(4校時)
- 10月15日(水) ~17日(金)
・2年生修学旅行(福岡・熊本方面)
- 10月31日(金) 学習発表会
- 11月 7日(金) 小中学生音楽発表会
- 11月21日(金) 翁頭山卒業植樹登山
- 12月10日(水) 人権集会
- 12月24日(水) 終業式

※3年生の実力テストの日程は未定です
※行事の期日が変更になることがあります。

SYD出前講座

9月2日(火)に文部科学省の後援で「子どもゆめ基金助成活動で全国の学校を対象に出前講座をしているSYD」という団体の出前講座を実施します。「実際にSYDが実践している支援活動を通してストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解します。自分たちに何ができるかを考え、命の尊さ、感謝する心、思いやる心、社会や人々のために役立つ喜びを実感し豊かな人間性を育むことを目的としています。本稿ではSDGs教育の一環として開催します。興味・関心がある方はぜひ御参加ください。当日参加を歓迎いたします。

9月2日(火)に文部科学省の後援で「子どもゆめ基金助成活動で全国の学校を対象に出前講座をしているSYD」という団体の出前講座を実施します。「実際にSYDが実践している支援活動を通してストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解します。自分たちに何ができるかを考え、命の尊さ、感謝する心、思いやる心、社会や人々のために役立つ喜びを実感し豊かな人間性を育むことを目的としています。本稿ではSDGs教育の一環として開催します。興味・関心がある方はぜひ御参加ください。当日参加を歓迎いたします。

校長室から

この夏、親戚が五島に遊びに来るといいます。来る前から「何を食べさせようか」「どこを案内しようか」と頭を悩ませていました。いざ到着すると、開口一番「海が見たい」と言うので、五島自慢の高浜へ連れて行こう!と思っていたのですが、我がふるさと・大浜の海岸を見て「すごい!」と感動してくれました。料理が得意ではないので、寿司桶はあつと舞ったところ、寿司桶はあつとこの間に空っぽに。さらに夕食のたびに出したお刺身も、とうとう私の口には一枚も入りませんでした。

山からは満天の星空に驚き、崎ながら都会育ちの親戚の姿を見ながら、毎日眺める海も星も、なごみや角度によっては「きらめく宝石のように見える」のだと改めて気づき、五島を誇らしく思えた夏でした。